

開講日	2020年春期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階 講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学大学院 臨床感染制御学分野 教授 中村 敦		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】薬剤耐性菌（AMR）の時代と云われる現代において、AMRを低減させるためのグローバル・アクションプランがWHOで採択され、わが国も2016年にAMR対策アクションプランを発表しました。2020年はその成果を検証する年です。一方、2019年末から出現した新型コロナウイルス感染症は2002/3年の急速にその版図を拡げ、2003年のSARSを超える規模となって世界を震撼させています。さらに、本年は東京オリンピック/パラリンピックの開催により世界各地から大勢の外国人が来日するため、さまざまなインバウンド感染症の対策も怠りなく進めなければなりません。本講座では、日頃より感染症診療、感染管理に関わっているさまざまな職種の専門家から最新の感染症・感染対策の情報発信します。 【期待される成果】感染症に関する基本的知識に加え、最新の情報や現在抱えているさまざまな問題を学ぶことにより、安心・安全で質の高い医療を提供できることを目指します。
目標とする 資格	ICD制度協議会：インフェクションコントロールドクター、日本感染症学会感染症専門医、日本化学療法学会：抗菌化学療法認定医/指導医・認定歯科医師/指導医・認定薬剤師、日本看護協会：感染管理認定看護師、日本病院薬剤師会：感染制御認定薬剤師、日本臨床微生物学会感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	感染症ってどうやって診断するの？	細菌感染・ウイルス感染など、さまざまな感染症がありますが、発熱などのさまざまな症状から、感染症と他疾患との鑑別、感染症の診断に至るまでについてのお話をします。	4月7日	名古屋市立大学病院 総合内科 講師 田中 創始
L-2	2	AMR対策において求められる微生物検査	感染症診断・治療にあたり病原微生物の迅速な特定は必須であり、薬剤耐性(AMR)対策においては耐性菌の正確かつ迅速な検査もまた重要です。これらの情報に加え、検査の質に関わる適切な検体採取や、感染症の迅速診断として有用なグラム染色等、臨床に有効な情報を発信するための微生物検査についてお話します。	4月14日	名古屋市立大学病院 感染制御室/中央臨床検査部 微生物検査係 堀 薫
L-3	3	ASTで話題になる抗菌薬の適正使用～この使用はありや？なしや？～	ASTで話題となる抗菌薬の適正・不適切使用の具体例を提示し、抗菌薬の適正使用の基礎となる考え方を皆さんとreviewします。	4月21日	名古屋市立大学病院 消化器外科 助教 柳田 剛
L-4	4	知っておきたい感染症治療薬	細菌感染症の治療において患者の予後を改善するためには、的確に感染症の診断を行い、最も効果的な抗菌薬を適正に投与することが重要です。抗菌薬の「基本的知識」から「実際にどう使うか」まで、わかりやすくお話します。	4月28日	名古屋市立大学病院 感染制御室/薬剤部 感染制御専門薬剤師 和知野 千春
* L-5	5	COVID-19、EVD、結核、梅毒... 新興・再興感染症を考える	新型コロナウイルス感染症などの新たに公衆衛生上問題となった新興感染症、結核や梅毒などかつて流行しており最近再び問題になっている再興感染症の現状についてご紹介いたします。	5月12日	名古屋市立大学病院 感染制御室 室長 中村 敦
L-6	6	感染症の管理	重症感染症患者においては診断、治療の結果がそのまま命に関わる可能性があります。ただ重症感染症の診療においても感染症診療の原則は変わらず、感染症の存在、感染臓器・原因微生物の整理、適切な抗菌薬の投与が重要となります。本講座では敗血症をはじめとした重症感染症の管理の実践についてお話します。	5月19日	名古屋市立大学病院 麻酔・集中治療科 佐野 文昭
L-7	7	外科医が遭遇する感染症	外科医が遭遇する感染症には、感染症自体が手術治療の対象となる外科感染症と、術後合併症としての感染症(手術部位感染)があります。最近のトピックスや実践例を紹介いたします。	5月26日	名古屋市西部医療センター 消化器外科 部長 若杉 健弘
L-8	8	渡航者の感染対策	海外から輸入される感染症には、寄生虫のように感染が個人に限定されるものから、COVID-19のように感染が広がっていく疾患があります。個人を守るため、また社会を守るために何が必要か、皆様とともに考えたいと思います。	6月2日	名古屋市東部医療センター 感染症センター 長 長谷川 千尋
* L-9	9	災害時に注意が必要な感染症	災害時に避難所や災害現場で注意が必要な感染症とその対応についてお話します。	6月9日	名古屋市立大学大学院医学研究科 先進急性期医療学 教授 松嶋 麻子
L-10	10	基本から学ぶ感染対策	標準予防策は患者と病院従事者等を守る基本的な対策ですが、これらの実践により薬剤耐性菌の伝播を阻止することもできます。具体的場面をふまえて基本を復習し、さらに輸入感染症に備えるために何をすべきかを考えます。	6月16日	名古屋市立大学病院 感染制御室 副室長 小川 綾花
L-11	11	院内感染対策における微生物検査技師の役割	早期に病原性微生物の検出・特定を行うことは、院内感染対策においては必須であり重要です。これらの情報の発信源ともなる微生物検査技師の役割と、多様化する耐性菌・院内感染原因菌の検出検査方法までをお話します。	6月23日	名古屋市立大学病院 感染制御室/診療技術部臨床検査技術科 微生物検査係 近藤 周平
L-12	12	感染症診療、感染対策における薬剤師の役割	抗菌薬、上手に使っていますか？抗菌薬は病原菌を壊したり、増えるのを抑える一方で、耐性菌を増やす一因にもなります。抗菌薬適正使用における薬剤師の役割について、当院のAST・ICT活動を紹介しながらお話します。	6月30日	名古屋市立大学病院 感染制御室/薬剤部 感染制御認定薬剤師 朝岡 みなみ
L-13	13	サーベイランスによる察知とアウトブレイク対応	サーベイランスは医療関連感染の発生状況を把握することでアウトブレイクの発生などを察知することができます。万一、アウトブレイクが発生した場合は手順に沿った対応と組織力が不可欠です。今回は事例を紹介しながらお話します。	7月7日	一宮研伸大学 看護学部 講師 畠山 和人
L-14	14	知らないといけない 事例から学ぶ、感染症と医療安全	医療従事者にとって感染症と医療安全は知識として持っておくべき大きな項目の一つです。今回は実際の事例を通じて感染症と医療安全について解説し、実臨床の中で知っておくべき項目をピックアップしたいと思います。	7月14日	名古屋市立大学病院 医療安全管理室 副室長 加藤 裕史
* L-15& D-1	15	突りある学習が出来ましたか？ 本コースの復習・習熟度チェック	本コースの講演内容をQ&A方式で復習し、ご自身の習熟度を確認してみよう。	7月21日	名古屋市立大学大学院 臨床感染制御学 教授 中村 敦